

安陵逍遙歌「轍」^{わだち}

作詞：藤山萬太(大高2回卒)
作曲：向 徹郎(大高15回卒)

1. 安勝川の 水清く

緋寒桜の 坂道に

友と睦みし 丘の上

若き思いは 尽きずして

幾星霜は 早過ぎぬ

緋寒桜: 上部校庭の大高坂の両側の桜は
二十数年前の在校生が植樹したものである

2. 名瀬立神の 沖遠く

^{くるしゆ} 黒潮の流 ^{とうとう} 湍と

先師の心 尊くて

和親・協同・自治・奉仕

^{おしえ} 訓 となりて 残りたり

先師: 大中再生の祖師、龍野定一先生である

3. 希望の光 ^{あかあか} 明々と

通い行きたる 赤き門

^{きぎ} 赤木の巨木の 年輪に

世に尽くしたる 先輩の

^{わだち} 轍 の跡の 素晴らしさ

明々: 赤き門、赤木と「あか」を三つ並べて、特に
大中の先輩達の熱き思いを示した

轍: 校門を入れて右側、先師亡友の碑の入り口に
本校教諭であった日展審査員橋本加代子氏の
「青春のわだち」が建っている

4. 我等が母校 大高の

^{ふり} 歴史は古し 一世紀

新川の流 絶えずして

ああ安陵は 不滅なり

真理求めて 進みなん

※15回卒の皆さんは何度となく会合を持ち、題名の選定、作曲の依頼等の苦勞を重ね、
安陵讃歌と逍遙歌「轍」が生まれた。